

慶祝

おめでとうございませ
心より祝福いたします

(敬称略)

秋田市長表彰 平成25年7月12日付
 ◎自治振興(町内会長)
 伊勢 定正(南通築地)
 内藤 眞吾(榎山愛宕下)
 鈴木 鎮一(榎山太田町)
 ◎社会福祉(民生児童委員)
 川井 精一(榎山本町)
 於「秋田市の記念日」式典

会務報告

平成25年2月～25年8月

2月14日 県児童会館で開催された地域福祉活動合同研修会に参加
 2月14日 市社協事務担当研修会へ会長事務局長が出席
 2月22日 築山小学校2分の1成人式へ協力
 3月1日 「築山社協だより第43号」を発行し、町内会長、民生委員の手を借り全世帯に配布
 3月18日 榎山保育園の子ども達と「幼児と高齢者の集い」を榎山コミセンで開催
 3月18日 共同募金実績報告会に会長と事務局長出席
 3月18日 共同募金ブロック会議に会長出席
 3月22日 市社協Bブロック研修会参加
 4月11日 24年度会計監査の実施

“介護ボランティア”に参加しませんか!

介護支援のためのボランティア活動で、地域貢献もねらいとした制度です。活動を行うには、登録講習会受講が必要になります。

今後の講習会は10月～26年2月まで毎月1回開催予定です。日時・申込み等は市社協(下記)にお問い合わせ下さい。

○ 対象者
 市内在住65歳以上(秋田市介護保険第1号被保険者)要介護認定を受けていない健康で体力のある方

○ 受入機関における施設で行うおもな活動
 レクリエーション支援/お茶だし・配膳・下膳補助/喫茶等の運営補助/散歩・外出・館内移動補助/模擬店・会場設営・芸能行事等手伝い/話し相手/草刈り等、施設職員と行う補助的・軽微な活動

○ 登録者数
 (平成24年10月1日～25年5月31日まで)
 284名(男76・女208) 7月末迄実延活動人数762名

○ お問い合わせ先
 秋田市社会福祉協議会 地域福祉課
 介護支援ボランティア担当
 (☎018-862-7445)

◆編集後記◆

平成25年は、地区内関係施設の節目創立記念日が目白押しに並ぶ。4月1日60周年の秋田南中学校、7月1日40周年の榎山保育園、11月1日130周年の築山小学校、同25日80周年の秋田婦人ホームと続くオン・パレード▼各施設には編集子が時折取材にお邪魔しているが、ご便宜だけでなく、本号4面のようにタイムリ、且つ貴重な写真をご提供いただくこともあり、感謝に堪えない。改めて両校、2福祉施設の更なるご発展を祈念致したい▼秋田婦人ホームは早川かい氏と共に、和崎ハル氏も昭和7年の建設発起人代表者、和崎氏は榎山南新町下丁・土族の出身で、婦人参政権運動の代表的な先覚であった。日本女性が戦後初の投票権を得た昭和21年、衆議院議員選挙に最高点で当選(全県1区)したにも触れておきたい▼婦人ホームの移転後、榎山緑地には昭和55年、市女性学習センター、働く婦人の家が開設、また現在秋田共立病院となっている場所には県母子福祉センター、県公共内職指導所があった。俯瞰すると記念碑が立つ榎山コミュニティセンター界隈は、正に秋田婦人解放運動のメッカ(聖地)ではなからうか(北條 晃)

編集委員 北條 晃
 加藤 俊悦
 樋渡 久孝
 樋渡 久孝
 久孝

連絡先(事務局) 樋渡 久孝

グラウンドゴルフ大会」に地区から2チーム参加
 7月25日 共同募金運動資料を市共同募金会に申請
 8月7日 敬老会該当者に案内及び、市社協だより第57号を民生委員、町内会長を介して全世帯に配布
 8月8日 敬老会の案内を築山小学校を始め各種団体等に配布
 8月10日 敬老会祝宴の演芸等を開係者に依頼

謹んで哀悼の意を表します
 元築山小学校校長・元民生児童委員
 正六位 野尻 滋殿
 平成25年5月21日死去・88歳
 6月18日叙位(追贈)

第44号

平成25年9月1日

築山地区社会福祉協議会

発行人 加藤 俊悦
(題字:茂林 憲子)

築山社協だより



80周年を迎える秋田婦人ホーム(榎山古川新町)

大正末期頃から困窮状態に陥った女性救済のため、早川かい氏を中心に地元女性たちが一致協力、昭和8年の秋田婦人ホーム建設に結実した。本年11月には創立80周年の節目となる。▼6面参照(編集委員 北條 晃)

来る超高齢化社会に向けて



築山地区社会福祉協議会 会長 加藤 俊悦

今年3月末に厚生労働省が2040年の都道府県別将来推計人口を発表、秋田県の人口が70万人を割るという推計値が示されました(減少率:全国最大35.6%)。秋田市では30年間で約8万8千人が減少(減少率27.2%)。出生減・人口流出の加速等により、益々少子高齢化が進行する見込みです。課題解決は一朝一夕にはできませんが、行政と地域が知恵を出し合い今後の地域福祉を考えていく必要があります。そこで、市当局や市社協の今の動きを紹介します。

◇WHO(世界保健機関)が提唱・推進する事業である「エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)」の実現を目指し、平成23年に秋田市が全国に先駆けて名乗りをあげました。超高齢化社会を見据えて新しい社会モデルや行動計画を策定、全国にも発信しようとするものです。

◇ マスコミでも取り上げられたように、今年3月には「あきた市民の会」が設立され、市民主体の講習会や活動もスタートしています。(詳細は秋田市長寿福祉課・☎866-12096)

◇ 昨年、「秋田市介護支援ボラ

「地域包括支援センター」では、当地区が泉地域包括支援センターに割り当てられていました。今年度から利便性が高まりました。家族だけでなく、友人や近所の方々の介護等での悩みや不安などに関する無料相談も行っています。(5・7面の記事参照)

現在、市社協では、今後5年間を見据えた新たな「地域福祉活動計画」を策定中です。その動きも適宜捉えながら築山社協事業の改善、充実に取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

福祉増進は 域内諸団体と連携

25年度築山地区社協 定期総会

本年度の事業計画や予算などを審議する当築山地区社会福祉協議会の定期総会は、4月27日榎山コミュニティセンターで開催、役員・評議員98名が出席しました。

冒頭、加藤俊悦会長が挨拶（別稿に要旨）、続いて議事に入り、樋渡久孝副会長・事務局長から24年度の事業・

決算報告、さらに25年度の事業計画及び収支予算の議案説明があり、いづれも原案通り（3面の表に記載）承認されました。

また任期（2年）満了に伴う役員を選出では、加藤俊悦会長、4副会長の再任。以下別稿の通り会長委嘱、議事は滞りなく終了しました。



加藤俊悦会長のあいさつ概要

昨年末の「赤い羽根・共同募金」と「歳末助け合い募金」の実績を報告、各位の協力に感謝を申し上げる。大口募金も含めて今後とも一層の協力方をお願いしたい。

市社協策定の「第3次地域福祉活動計画」は、本年度が最終年次となり、26年度以降に向けて本年改定される。「秋田市エイジフレンドリー構想」のねらい、南大通りに新設の中通地域包括支援センターの役割説明なども。児童・高齢者等の虐待防止を図るため、施設・団体等を含めた地域社会と当社協との連携強化の必要性がある。

議事終了後、日赤市地区築山分区長・妹尾弘氏から「25年度日赤社員増強運動」への協力依頼がありました。

◆本年度事業計画の重点目標

「みんなの福祉をみんなの手で」を25年度も引続き合い言葉に、当社協は域内の民生児童委員、町内会長、福祉協力員、自主防災組織、老人クラブ等と密接な連携を図ります。

そして地域住民が積極的かつ主体的に福祉活動に参加し、誰もが安心して暮らせる「顔の見える絆づくり」の事業を推進、高齢者の見守りネットワーク及び災害に備えた支え合いの地域づくりに目標を設定します。

- 1、高齢者の健康・生きがいづくり
- 2、敬老会の開催と老人クラブ支援
- 3、児童の健全育成とその支援活動
- 4、福祉協力員等、学習研修会の実施
- 5、福祉関係・連携諸団体への助成
- 6、築山社協だよりの発行・全戸配布
- 7、サークル活動支援・地域交流行事

築山地区敬老会のお知らせ

当社協主催の恒例25年度築山地区敬老会を次のとおり開催します。満75歳以上（26年4月1日現在）の皆様は町内会長を介してご案内しておりますので、お誘い合わせのうえ、ぜひ御出席下さい。

日時 9月17日（火）午前11時
場所 榎山コミュニティセンター



中通地域包括支援センター

幸ザ・サロン

築山地区も所轄

エリアに

4月開設

地域包括支援センターは、それぞれの地域で暮らす高齢者を、介護、福祉、健康、医療など、さまざまな角度から総合的に支える機関です。



毎月1回 22名が参加の「はつらつくらぶ」

楽しいひとときを過ごせます。

センターの2階にはサロンがあり、ゆったりとした気分を味わえる様々なソファや椅子も用意されています。（ポットのお湯があります）飲物の持参は出来ませんが、食べ物・アルコールの持込みは不可です。

散歩の途中での一休み。読みかけの本を持参しての読書タイム、友人同士での待ち合わせなど、運営時間内であれば自由に利用（要受付）できます。（センター ☎ 827-13323）

参加しませんか!

地域のいきいきサロン

築山社協でも、地域元気アップ事業として、高齢者向けのいきいきサロン（下表）活動を支援しております。

仲間づくり！生きがいづくり！健康づくり！ いきいき地域サロン

| サロンの名称 | 例会日時 | 開催場所 | 代表者・連絡先TEL |
|-------------|-----------------|----------|------------|
| グラウンドゴルフ友の会 | 毎週火・金 午前9:30 | 榎山公園 | 太田 昭夫 |
| | 毎週木 午後1:00 | 榎山公園 | |
| | 毎月第2・4土 午前9:30 | 築山小グラウンド | |
| 築山寿コーラス | 毎月第1・3木 午前10:00 | 榎山コミセン | 新城 巖 |
| 榎山合唱クラブ | 毎月第2・4木 午前10:00 | 榎山コミセン | 妹尾 克利 |
| フロアカーリング会 | 月・土(不定) 午前9:30 | 榎山コミセン | 佐藤 敏勝 |
| 囲碁クラブ | 毎週土 午後1:00 | 榎山コミセン | 大島 洋三 |
| 太田町ほほえみサロン | 毎月第2・4月 午前10:00 | 太田町町内会館 | 福井 陽子 |

築山地区社協役員名簿（順不同）

平成25年4月27日 選任・委嘱

◇会長

加藤 俊悦（再任・榎山南中町）

◇副会長 4名

神田 武（再任・榎山南中町）

佐々木洋吉（同・榎山共和町）

鈴木 夏代（同・榎山寺小路）

樋渡 久孝（同事務局長担当・榎山太田町）

◇監事 2名

石郷岡 繁（再任・榎山太田町）

三浦 隆一（同・榎山川口境）

◇顧問

高桑 博（会長委嘱・南通みその町）

◇理事 26名（会長委嘱）

妹尾克利（榎山南中町）、妹尾 弘（榎山本町）

北條 晃（榎山大元町）、松田昭夫（南通宮田）

伊勢定正（南通築地）、中川 巖（同）

太田昭夫（榎山南中町）、佐藤哲郎（同）

藤原賢一（榎山川口境）、川井精一（榎山本町）

小松 勇（榎山石塚町）、佐藤義孝（榎山愛宕下）

佐藤秀一（榎山登町）、田口 学（同）

東海林正博（同）、富川有策（榎山共和町）

京屋 均（榎山本町）、菅原良子（同）

石川朝子（南通みその町）、佐藤 翠（同）

菊地登喜子（榎山登町）、高橋啓子（榎山南新町）

佐藤美智子（南通宮田）、浦野真弓（築山小校）

米澤喜彦（南中校長）

高田和明（築山小PTA会長）

◇評議員

右記以外の民生児童委員、主任児童委員、町内会長、福祉協力員

築山地区社会福祉協議会の 会計報告

平成24年度決算及び平成25年度予算

収入

単位：円

| 科 目 | 24年度決算額 | 25年度予算額 | 予算に対する内容説明 |
|-------------|-----------|-----------|-------------------------------|
| 1 会 費 | 1,162,440 | 1,162,800 | 360×3,230世帯 |
| 2 共同募金一般配分金 | 901,615 | 897,880 | 24年度地区共同募金実績による配分 |
| 3 友愛訪問事業交付金 | 141,818 | 141,818 | 見守りネットワーク事業 |
| 4 助 成 金 | 1,265,258 | 1,265,000 | 地区福祉活動 516,800、元気アップ他 748,200 |
| 5 補 助 金 | 1,587,000 | 1,550,000 | 敬老会市補助 |
| 6 寄 付 金 | 660,000 | 100,000 | |
| 7 諸 収 入 | 1,225 | 1,654 | 預金利子他 |
| 8 繰 越 金 | 979,392 | 1,095,848 | 平成24年度からの繰越 |
| 合 計 | 6,698,748 | 6,215,000 | |

支出

単位：円

| 科 目 | 24年度決算額 | 25年度予算額 | 予算に対する内容説明 |
|----------------|-----------|-----------|---|
| 1 会 議 費 | 109,179 | 150,000 | |
| 2 事 務 費 | 117,769 | 200,000 | |
| 3 老 人 福 祉 費 | 2,007,073 | 2,120,000 | 敬老会主催 2,000,000 地区内3老人クラブへ助成 120,000 |
| 4 児 童 福 祉 費 | 220,000 | 170,000 | 地区内3保育園 60,000 築山きりんクラブ 20,000 築山小学校子供会育成 40,000 児童センター運営助成 50,000 |
| 5 災 害 見 舞 金 | 0 | 100,000 | |
| 6 研 修 費 | 473,810 | 150,000 | 役員研修、7地区、Bブロック研修他 |
| 7 助 成 金 | 150,000 | 140,000 | 築山地区民生児童委員協議会 40,000 築山学区町内会長連絡協議会 40,000 築山地区自主防災組織協議会 40,000 檜山コミュニティセンター 20,000 |
| 8 広 報 費 | 404,428 | 420,000 | 築山社協だよりの発行(年2回)と全世帯配布 |
| 9 慶 弔 費 | 20,000 | 50,000 | |
| 10 特 別 事 業 費 | 904,201 | 950,000 | 地域交流行事 450,000 高齢者への激励訪問 100,000 幼児と高齢者のふれあい行事 50,000 軽スポーツレクリエーション大会他 100,000 グラウンドゴルフ大会(年5回) 100,000 地域サロンへの助成他 50,000 |
| 11 市 社 協 納 入 金 | 1,196,440 | 1,220,000 | 全戸会員会費 1,162,800、特別会費他 57,200 |
| 12 基 金 繰 入 | 0 | 500,000 | 基金として定期預金へ |
| 13 予 備 費 | 0 | 45,000 | |
| 合 計 | 5,602,900 | 6,215,000 | |

※ 上記の外に、基金として3,500,000円の定期預金(北都銀行檜山支店)

秋田婦人ホーム

創設80周年を迎えて

―女性の自立と生活を支える歩み―

母子生活支援施設 施設長 佐々木ケイ子

社会福祉法人秋田婦人ホーム(檜山古川新町・理事長 早川正明)は、本年11月25日、創立80周年を迎えます。秋田婦人ホームの歩みについては、創設者であり、日本キリスト教婦人矯風会の初代秋田支部長であった早川かいは紹介させていただくことにより理解を深めていただけることと存じます。

婦人救済の先達 早川かひ

早川かひ(1884年―1969年)は、山梨県出身で結婚後に上京して、眼科医だった夫祐吉の勧めもあり、キリスト教にもとづく斬新な女子教育を行っていた明治女学校に入学して3年間、寄宿舎生活を送りました。そこで、多くの良友・師を得、計り知れない影響を受けたものと思われまふ。卒業後、夫の病院赴任に伴い湯沢、



婦人解放運動発祥の地。現在の檜山コミュニティセンター前に立つ記念碑(昭和57年建立)

横手を経て明治42年、秋田市に移り、眼科医を開業した夫の手助けをします。以後20数年間、その社会的活動が最も充実した時間を過ごすことになりました。矯風会秋田支部結成後の最初の大きな仕事は、関東大震災による被災者の救済活動。秋田から多量のしべ(藁)布団を関東に送り自らも上京しました。そこで吉原遊郭の焼け跡で逃げ場を失って焼死した娼妓の惨状を目の当たりにし、いたく胸を打たれました。その出身地は東北が一番多いと聞き、強く心に決するところが、これが後に廃娼運動に全力を注ぐ大きな源になるのです。

全国的に始まっていた廃娼運動を、秋田県では矯風会と男子を中心とした廓清会の連携のもと推進し、全国で3番目の廃娼県となりました。

自由廃業となった女性たちではありましたが、この後も前借金に縛られている状況は変わらず、早川宅に助けを求めて駆け込んでくる女性が後を絶たなかつたことあります。また、生活に困窮した女性を救済するためにも、個人で保護するには限界があったことから施設の建設が急務になりました。

困窮する母子等をサポート

母子生活支援施設は児童福祉法に定められる施設で、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、また何らかの事情で離婚の届出ができない等、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。様々な事情で入所されたお母さんと子どもに対して、心身と生活を安定するための相談・援助を進めながら、自立を支援していきます。

入所者の半数近くの方が配偶者等の暴力、DV(ドメスティックバイオレンス)被害に合った母子たちであり、秋田婦人ホームで心や体を癒し、新たな出発をしていた、きたいと切に願うものです。全国的な傾向としてDV被害者や児童虐待、さらに精神障がいや知的障がいのある母子の利用や外国籍の方の利用が増え、乳幼児の比率も高くなっています。

このような多くの課題を抱えた利用者には「母子がともに生活しながら、ともに支援を受けることができる唯一の児童福祉施設」として、母親と子どもへのあらゆる人権侵害を許さず、その尊厳を尊重し、母親・子どもに対する支援、虐待の防止、母子再統合の支援退所後のアフターケア、地域支援などを充実させていくのが施設の大切な役割であると思えます。

また、母子生活支援施設の運営指針では「そこで暮らす親と子どもに『安定した生活の営み』を保障する取り組みを創出していく」ということが目的としてあげられています。

秋田婦人ホームはこのように多くの変遷を経ながら80年の歴史を刻んできましたが、創立の精神を忘れることなく、これからも時代の求めに対応できるように、運営指針に基づいた役割と理念を心に留め、歩みを進めていきたいと思っております。

※編集部注①理事長・早川正明氏(南通亀の町)早川眼科(院長)は、早川かひ氏の御令孫
②保育園「城南園」及び放課後児童健全育成事業の「ひばりクラブ」は、社会福祉法人秋田婦人ホームが運営主体



築山地区

5月16日、築山小学校安全ボランティア顔合せ会で児童たちから見守りの御礼をいただく。児童の安全な登下校確保のため、学区内の危険箇所や配慮の必要地域についても情報交換した



「みなさん、お気軽に相談して下さい」——この4月に南大通りに新設された中通地域包括支援センターのスタッフたち。4人はそれぞれ専門分野を持っているが、互いに連携をとりながらチームとして総合的に高齢者を支える機関。要介護認定の申請、認知症の親の徘徊、そのほかどんなことでも文字どおり包括・関係機関等と連携、対応（時には出前サービスも）する。センターの運営日は（月～金8：30～17：30）▶7面に関連記事



左から保健婦・竹内さおり、主任介護支援専門員・杉山洋子（管理者）
社会福祉士・鈴木優子、事務員・久島薫の皆さん

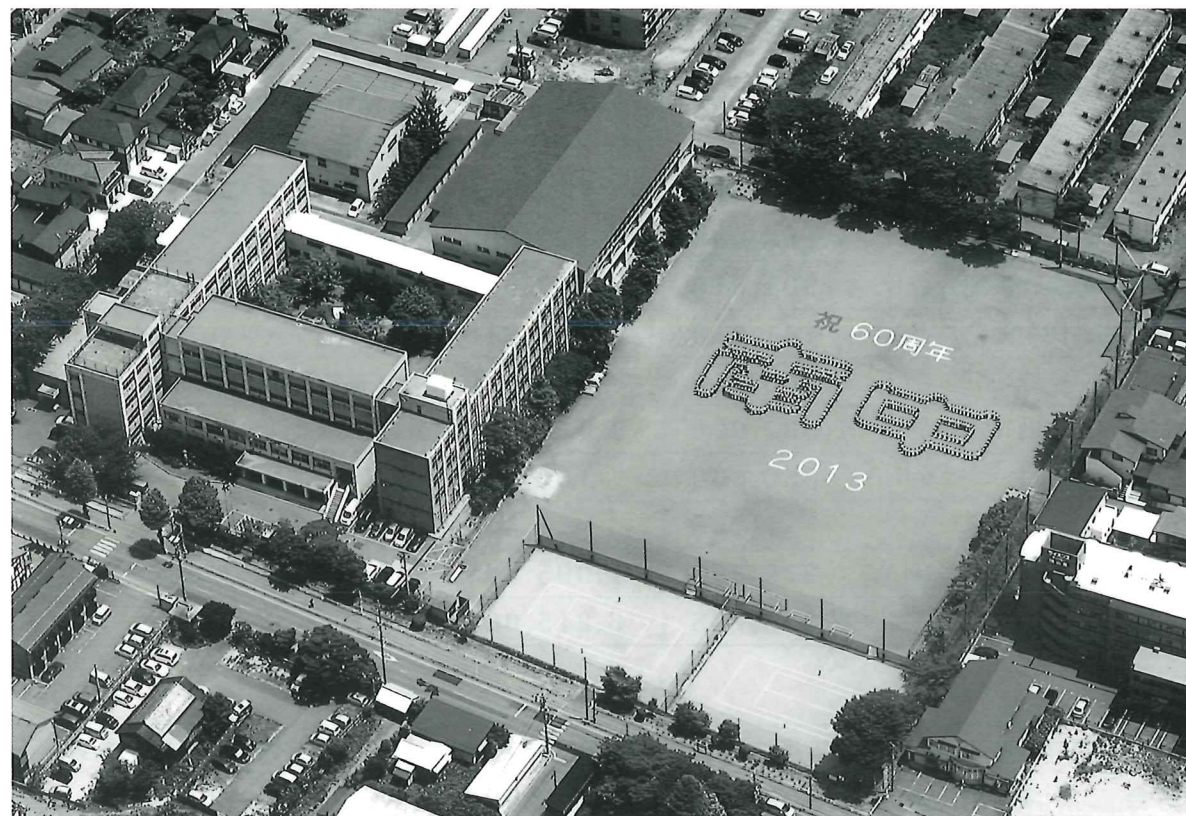
カフェ「IVY」（高畑美幸店長）では、毎月最終日曜日に行われるイベント「ならやま日曜はしご市」でチャリティを継続している



本年3月、楢山登町のカフェ「ゴーパーティー&ニット・IVY」で「ハンドメイドマーケット」が開かれた。展示販売は東日本大震災で県内に避難して来た女性8人の作品。ピースのアクセサリや毛糸で手編みした動物のマスコット等の売り上げは、全額制作者に贈られた。左は作品購入で支援する地域住民。築山地区で避難生活（応急仮設住宅）を送る方は8世帯17名

地域活動

写真で見えるまちの動き



秋田市立秋田南中学校（南通宮田）は本年4月1日、創立60周年を迎え、7月2日、全校生徒、職員の人文字によりメモリアルを飾った。同校は昭和28年に泰平中学校、久保田中学校を統合、旧泰平中学校舎（現在の楢山緑地）でスタート。現在16学級、生徒数は417名。築山小、中通小、旭南小（一部）等の卒業生が在学している。写真提供は秋田南中学校提供



秋田婦人ホームに入所の母子たちが参加した春祭り（4月）。職員が24時間体制で常駐、各家庭に合せた支援をする▶6面に関連記事=秋田婦人ホーム提供



本年7月1日、社会福祉法人楢山保育園（南通宮田）は創立40周年（昭和48年開園）を迎えた。現在105名のならやまっこが在籍。楢山保育園提供

